

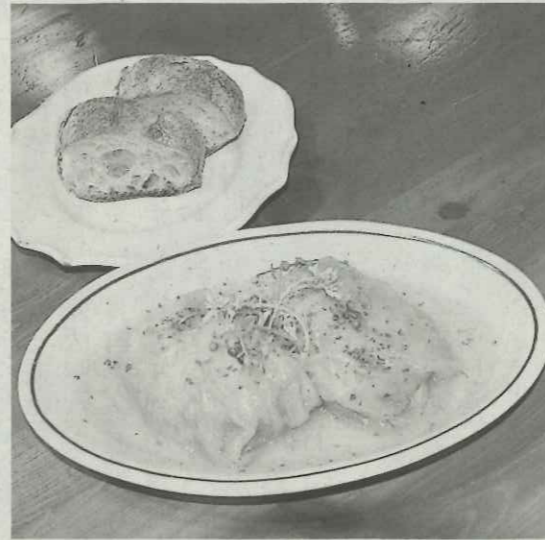
災害時 レストランの料理提供

県内初「オーガニックJAS」認証 木更津の2店

県内で初めて国の「オーガニックレストランJAS」の認証を受けた木更津市内のレストランが、大規模災害時に同店の料理を被災者に提供する。規格外などで廃棄される農作物も積極的に使って、「食品ロス」を抑えたいと考えて、今月、同市と災害協定を結んだ。

「ごはんクリエイト」社の「JAS規格」として長の野口利一さん(38)が経「オーガニックレストラン」営する「ブッフルージュ」と「ごくりっ」のレストラン2店だ。

農水省は、「有機食材の配合割合が80%以上の有機料理を5品以上提供する」ことなどを条件に、飲食店は「地産地消」を強く心が



大規模災害時に野口さんが提供を考えている「木更津の恵みポークロールキャベツ」(手前)＝木更津市大和

市と協定 食品ロス解消も目指す



野口利一さん

ける。2店は、地元農家や漁業者から仕入れた旬の野菜・果物、魚介類を食材に工夫を凝らしたメニューで人気を博している。

会社を創立する前、野口さんは東京都内などに店舗展開するレストランの総料理長を務めた。2011年3月の東日本大震災発生時、都心の系列レストランで大勢の帰宅困難者に温かなスープを提供する総指揮を執った野口さん。「みなさんの安心した表情と感謝の言葉が忘れられない」

こうした体験から、今月、木更津市と災害協定を締結した。提供するのにはロールキャベツやポトフなど、ロールキャベツの野菜や豚肉は木更津産。ポトフは、その時々で調達可能な

野菜などで対応ができて、栄養バランスも非常に良いからだ。

一部は冷凍保管しておけば量も確保できる。湯煎すればレストランの味が楽しめるという。

野口さんは、規格外であったり、鮮度が落ちたりして廃棄される野菜などの「食品ロス」の解消について、日頃から生産者らと解決策を模索している。

大規模災害時、被災者への料理提供には大量の食材が必要になる。商品化されない農作物を生かすことは有意義であり有効策だ。そのためには調達ルートや手続などを平時に確立しておく必要がある。野口さんは、地元・近隣JASの直売所などにも協力を求め協議を進めたい考えだ。

「『食品ロス』という矛盾を解決したい。今回は大規模災害時の支援協力ですが、『子ども食堂』などにも結びつけたい。飲食店経営者として料理人として、取り組むべき社会貢献だと思っています」

(吉江宣幸)

船橋にんじん

臭み

春夏ニンジンの県内有数の産地の船橋市で、地域ブランド(地域団体商標)に



睦沢ゆかり詩情あふれる名画

町立歴史民俗資料館で企画展

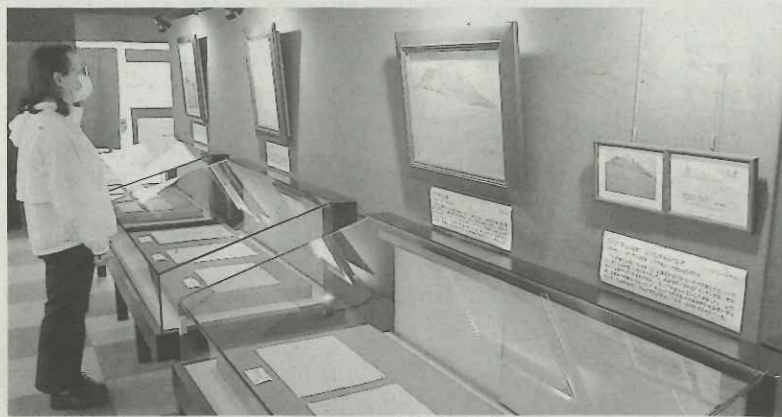
睦沢町立歴史民俗資料館で、企画展「内在する詩情―新収蔵の名画―」が開かれている。新しく収蔵した作品や、睦沢町にゆかりのある作家など10人の42点を展示している。いずれも詩情豊かな作品だ。5月16日まで。

同館には2019年12月に、日展の審査員をたびたび

び務めている千葉市の竹久秀樹さん(1950)と、父親が長南町出身の今関龍人さん(1936)と2018)の計6点の作品が寄贈された。市原市の画家久保木彦さん(1948)が仲立ちしてくれた。その縁で新収蔵品と、久保木さんの作品4点が展示された。竹久さんの作品は100号

と120号の油彩で、観客の関心も高いという。また睦沢町出身の中村次雄さん(1937)と2019)の油彩など7点、福岡県田川市生まれで現在は睦沢町に住んでいる下川吉博さん(1946)の油彩やスケッチなど18点も並んだ。

入場無料。月曜日休館。問い合わせは同館(0476-544-022)。



「内在する詩情」展の会場＝いずれも睦沢町



竹久秀樹「画室の風景」



竹久秀樹「夢の途中」

産の「房州びわ」に袋がけ 富浦小6年が作業体験



びわ生産者(右)に教えてもらい、袋かけ作業をする富浦小の児童＝16日、南房総市富浦町豊岡

「房州びわ」の産地である南房総市富浦町豊岡のびわ生産者(右)に教えてもらい、袋かけ作業をする富浦小の児童＝16日、南房総市富浦町豊岡

県内宿泊、抽選で毎日30人に500円補助券

県旅館ホテル生活衛生同業組合は、組合加盟の県内のホテルや旅館など約320施設に泊まった県民の客を対象に、毎日30人に抽選で5千円の宿泊補助券が当たる独自のキャンペーンを実施中だ。宿泊対象期間は19日～5月9日。領収書の写真を同組合のサイトや郵送で同月10日までに応募(当日消印有効)すると、当選者に郵送で宿泊補助券が届く。

旅館組合、県民を対象に

新型コロナウイルスの収束が見通せず、多くの宿泊客が見込めない中、リピーターを呼び込むのが狙い。宿泊補助券は組合加盟施設で6月～9月に使える。宿泊補助券の総額は315万円になる。武川豊事務局長は、施設の存続を支援するため企画した。安心して宿泊を楽しんで頂ければと話す。(多田晃子) リピーター呼び込みへ

苦境の中小企業 15万円の支援金

千葉市が制度

千葉市は、前回1～3月の緊急事態宣言の影響で売り上げが落ち込んだ中小企業に対して、一時支援金として一律で15万円を支給す

学」の一環。生まれ育った地域の自然や伝統文化を体験することで、「市に残っても離れても、心の支えになる故郷への思いを育んでもらおう」と、総合的な学習の時間に各校がそれぞれ取り組みを続けている。

富浦小では5年時の11月ごろ、びわの花を間引く摘花を行う。花はその後、青い実を多数つけるため、例年4月ごろ、実を間引く摘果作業をする。

児童は、びわ農家をつくる「南無谷枇杷研究会」の田中文夫会長(44)ら7人から袋かけの方法を聞いたあと、実際に体験。男子児童(11)は「20袋くらいかけた。どの実を残すか選ぶのと、袋の口を結ぶのが難しかった」と話した。(川上真)



ちばの宿に泊まって応援! キャンペーン